



## 内外900余りの会場で4万人が挑戦

=平成26年度第1回検定を実施=



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」（略称・語検）の平成26年度第1回（通算第15回）検定が、6月13日（金）と14日（土）に行われました。国内は47都道府県95カ所の一般会場と816カ所の準会場、海外はアメリカ（ニューヨーク）、イギリス（ロンドン）、韓国（ソウル他）、フランス（マドレーヌ）の4カ国（準会場も合わせ）で実施され、合わせて4万508人が受検しました。

「語検」は、日本語を正しく使うために必要となる、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など6つの領域にわたり、一人ひとりの能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、7月上旬に語検ホームページで合否速報が発表され、同月中には合否通知が送られます。

今回の受検者数は、1級（社会人）800人、2級（大学卒業程度）3685人、3級（高校卒業程度）1万4808人、4級（中学校卒業程度）1万1351人、5級（小学校卒業程度）5603人、6級（小学校4年修了程度）3513人、7級（小学校2年修了程度）748人で、前回に比べ7級が4割近く減った半面6級が2割増えたのが特徴です。最年長者は92歳の男性、最年少者は5歳の男の子でした。

### ◆午前と午後で1300人が受検＝東京23区会場

東京23区の一般会場となった豊島区西巣鴨の大正大学では、社会人を中心に1284人が1級から7級に挑戦しました。

梅雨の晴れ間のやや蒸し暑い中、半袖シャツなど軽装で会場入りする受検者が目立ちました。校舎内では検定スタートまでの僅かな時間も惜しんで問題集に目を通す姿があちこちで見られるなど緊張感が漂い、開始15分前には、監督者の注意事項の説明に耳を傾けていました。階段式の大きな教室から30人ほどで満杯となる教室まで、級ごとに分けられた教室に入り、午前と午後の2回に分かれて受検しました。



次ページへ続く >>>

### ◆ 子供には日本語も大事

品川区の男性（43歳、公務員）は、息子さん(小4)と娘さん(小2)の手を引いて来場。2人が通う地域の公立小学校は英語教育に力を入れているが、「子供たちには日本語も大事」と考えて日本語検定を受けさせることに決めたとのこと。息子さんは6級、娘さんは7級で午前と午後に分かれているため一日がかりの受検となりました。

新聞で日本語検定のことを知り、過去問題を解いて4級の受検を申し込んだという埼玉県草加市の女性（60歳、主婦）は、テレビのクイズ番組で日本語が取り上げられていることに触れ、「敬語とかは面白そう」と初めての検定にも余裕が感じられました。

### ◆ 社会人になると必要な言葉

台東区の男性（24歳、会社員）は、勤務先が新入社員や営業担当者に日本語検定の取得を奨励しているために初挑戦。東京営業所に勤務するこの男性は「今日は関西の本社でも受けているはず」と遠く離れた仲間とも健闘を誓い合っていました。

職業研修（インターンシップ）を体験して、自分の語彙力の無さに気付いたという埼玉県草加市の女性（20歳、大学3年）は昨年秋に3級を取得。「敬語など学生では使わない言葉も社会人になると必要になる」と2級へのレベルアップに表情を引き締めていました。

（時事通信社編集委員 升谷 昇）

## 次回検定のご案内

平成26年度 日本語検定  
実施予定

文部科学省後援事業

日本語検定

### 第2回(通算第16回)

〔一般会場〕 11月8日(土)

〔準会場〕 11月7日(金)・8日(土)

〔申込期間〕 8月1日(金)～10月10日(金)

